

4 計画の基本方向

(1) 目標

戦略的な産地強化と高収益型農林水産業への転換の促進による

「農林水産王国・千葉の復活」と、緑豊かで活力ある農山漁村

づくりの推進による「農山漁村の活性化」の実現

○数値目標：農業産出額全国第2位

海面漁業漁獲量全国第6位

(2) 分野別の13の戦略と基本方向

【園芸】 園芸産出額全国第1位の奪還に向けた「力強い産地づくり」の推進

◆園芸産出額（野菜、果樹、花き） 現状1,906億円(全国第2位) → 目標2,220億円(全国第1位)

◆いも類産出額 現状209億円(全国第3位) → 目標228億円(全国第3位)

再生・強化を目指す園芸産地に対し、生産力や収益力を向上させるための生産体制の構築や省力機械・集出荷施設の整備等を集中的に支援するとともに、公益社団法人千葉県園芸協会を核に関係者が緊密に連携して「オール千葉」体制を構築することにより、大口需要や加工・業務需要に対応し、国内外産地に打ち勝てる「力強い産地づくり」に取り組みます。

【農産】 バランスの取れた早場米産地の競争力強化と落花生の生産振興

◆「ふさおとめ」「ふさこがね」の作付割合 現状23.7% → 目標30.0%

新規需要米等の作付面積 現状2,482ha → 目標3,600ha

落花生の作付面積 現状5,450ha → 目標5,500ha

早場米産地の競争力を高めるため、消費動向の変化を踏まえ「ふさおとめ」と「ふさこがね」の生産拡大を図るとともに、飼料用米やWC S用稲等を組み合わせ、水田をフル活用した力強い水田農業経営の確立を目指します。

また、生産が年々減少している落花生について、は種や収穫作業の機械化による省力化を進め規模拡大を推進します。

【畜産】 酪農経営の強化と畜産物のブランド力向上

◆畜産産出額 現状1,034億円 → 目標1,050億円

酪農の生産基盤を強化するため、乳牛の生産性向上に自ら取り組む経営体を重点的に支援するとともに、飼料自給力を強化し、経営の安定化を図ります。

また、県産畜産物のブランド力を高めるため、出荷体制の一元化や安全で高品質な畜産物の生産体制を支援し、販売力を強化します。

さらに、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなど急性悪性家畜伝染病に適切に対処するため、家畜保健衛生所の機能強化を進めます。

【森林・林業】 森林・林業再生による森林機能の維持増進と災害に強い森林づくりの推進

◆森林整備面積 現状 1,105ha/年 → 目標 1,900ha/年

◆県産木材の利用量 現状 63 千 m^3 /年 → 目標 73 千 m^3 /年

森林組合などの担い手を育成・強化し、小規模な民有林の整備をまとまった形で可能とする森林経営計画の策定を推進するとともに、路網整備の推進や高性能林業機械の導入を加速化することにより、低コスト作業システムを確立し、主伐により高齢級化した森林の再生を図ります。

さらに、搬出木材の利用促進を図るため、県産材の需要拡大に取り組みます。

また、津波被害を軽減する海岸県有保安林の再生・整備や放射性物質によるしいたけ・たけのこの出荷制限の解除・安定生産に向けた取組を行います。

【水産】 収益力の高い漁業経営体への転換

◆海面漁業漁獲量 現状 15 万 4 千 t(全国第 7 位) → 目標 19 万 t(全国第 6 位)

長引く燃油高騰など経費が増大する中で、キンメダイなど沿岸重要資源の管理の強化や、つくり育てる漁業を推進して生産の維持増大を図るとともに、省人・省エネ型漁船の導入や協業化など、収益性の高い操業体制の実現に取り組みます。

また、高鮮度対応の高度衛生管理型市場を整備するなど、拠点漁港の機能強化を進め、産地間競争力の強化を図ります。さらに、ノリ養殖業については、生産工程の協業化などコスト低減の取組や贈答需要に加え新たな需要の開拓を推進します。

【販売促進・輸出拡大】 「千葉ブランド」農林水産物の販売促進と輸出の拡大

◆県産農林水産物の輸出額 現状 115 億円/年 → 目標 170 億円/年

◆商談会等における商談成立数 現状 136 件/年 → 目標 180 件/年

知事トップセールスや各種メディアを積極的に活用した県産農林水産物のプロモーション活動の戦略的な展開により、国内や東南アジア等の海外への販路拡大を推進するとともに、商品価値の高い売れるものづくりへの多様な支援を展開します。さらに、県産食肉の知名度向上のため、「チバザポーク」、「チバザビーフ」のプロモーション活動を強力に展開します。

【6次産業化】 農林水産業の経営の多角化を進める6次産業化の推進

◆6次産業化の年間販売額 現状 404 億円 → 目標 1,000 億円

農林水産物の高付加価値化と高収益化を推進するため、食品会社など他業種や産業振興センター、6次産業化ファンド等との連携により、地域ブランドとなる新商品の開発やマーケットの創造による需要の拡大を促進し、農林漁業者の所得向上を図ります。

また、「魚離れ」を食い止めるため、民間企業と連携し調理の簡便化に対応したファストフィッシュの拡大を推進します。

【食の安全・安心】 消費者に支持される安全・安心な農林水産業の展開

◆「環境にやさしい農業」取組産地数(累計) 現状 104 産地 → 目標 150 産地

◆放射性物質の出荷制限等が行われている農林水産物 現状 8 品目 27 地域 → 目標 出荷制限等の解除を目指します

本県農業の持続的発展に向け、生産性の向上を図りつつ、環境への負荷を軽減するため、I P M (総合的病害虫・雑草管理) 技術を活用するとともに、「エコファーマー」、「ちばエコ農業」やG A P (農業生産工程管理) など各種制度を活用し、「環境にやさしい農業」を段階的かつ総合的に推進します。

また、農林水産業の振興を通じ、県民一人ひとりがバランスの良い食生活を実践する食育の取組を進めるとともに、安全な県産農林水産物の供給を確保する観点から、放射性物質のモニタリング検査の実施や食品表示の適正化など、食の安全・安心の確保に努めます。

【農山漁村の活性化】 豊かな地域資源を活用した魅力ある農山漁村づくりと多面的機能の維持向上

◆直売所利用者（購入者）数 現状 1,371 万人／年 → 目標 1,530 万人／年

緑豊かで活力ある農山漁村を実現するため、農林漁業者が主体となり豊かな地域資源を活用した6次産業化の推進、農山漁村を支える多様な担い手の育成、グリーン・ブルーツーリズムの推進、農林水産体験を通じた都市農村交流の受入体制などの整備や質の向上を推進します。

また、農山漁村の多面的機能を維持するため、地域の用排水施設や漁場の管理など多様な人々が参画する地域活動を推進します。

【試験研究の充実】 試験研究機能の強化による高収益型農林水産業への転換

◆千葉ブランドとなる新品種育成や新系統の選抜 現状 7 件 → 目標 4 件

◆生産者の収益力向上につながる技術の開発 現状 211 件 → 目標 200 件

収益力が高く、次代を担う若者にとってもやりがいと魅力のある千葉県農林水産業を実現するため、独立行政法人や他県の研究機関、大学、民間企業等と連携し、先進的な技術開発や新たな品種育成等に取り組みます。

さらに、効率的・効果的な研究体制を構築するため、農林総合研究センター、水産総合研究センターなどの組織や施設の再編整備を進めます。

【担い手育成】 次代の農林水産業を支える多彩な経営者の育成

◆新規就農者数 現状 316 人／年 → 目標 450 人／年

◆農業生産法人数（累計） 現状 320 法人 → 目標 420 法人

◆集落営農組織数（累計） 現状 246 組織 → 目標 320 組織

農林水産業を希望する若者が安心して就業できるように県立農業大学校の機能強化や就業相談・研修制度の充実を図るとともに、経営が安定するまで給付金制度の活用等を促進し定着を支援します。

さらに、発展段階に応じて経営の多角化や法人化など経営の革新に果敢にチャレンジする担い手を支援し、アグリトップランナーをはじめとするビジネス感覚あふれる企業的な経営体を育成するとともに、地域農業を維持発展させる集落営農の取組を加速化します。

【基盤整備の促進】 生産性の向上や産地間競争力の強化に向けた生産基盤及び災害に強い農山漁村の整備

◆基幹水利施設の機能診断及び保全計画の策定割合 現状 20% → 目標 33%

◆水田のほ場整備率 現状 55.5% → 目標 56.3%

◆農業水利施設耐震点検の割合 現状 5% → 目標 100%

農林水産物の生産性の向上のため、安定的な農業用水の確保、ほ場の大区画化・汎用化及び流通拠点漁港の高度衛生管理を推進します。特に、既存施設については予防的な補修・更新により各施設の長寿命化を推進します。

また、津波や地震、豪雨等の自然災害から農山漁村地域の被害を防止するため、防災・減災対策を進めます。

【耕作放棄地・有害鳥獣対策】 多様な人々の参画による耕作放棄地の解消と地域が連携した有害鳥獣被害防止対策の推進

◆耕作放棄地の解消面積（累計） 現状 901ha（平成 21～23 年度の累計） → 目標 3,000ha

◆有害鳥獣による農作物被害軽減 現状 378 百万円／年 → 目標 300 百万円以下／年

耕作放棄地の解消を図るため、多様な人々による再生活動を支援するとともに、県農地中間管理機構の仕組みを活用し、担い手への農地集積を推進します。

また、有害鳥獣による農作物への被害を軽減させるため、放置竹林など荒廃森林の整備や、地域ぐるみで行う、防護・捕獲・資源活用・生息環境整備の4つのプロジェクトを総合的に推進します。